

2018年6月期 第1四半期 決算補足資料

2017.11.13

日本工営株式会社

IRに関するお問い合わせ：経営企画部 コーポレートコミュニケーション室 03-5276-2454

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は経済情勢等様々な不確定要因により、これらの予想数値と異なる場合があります。

2018年6月期 第1四半期実績

(単位:百万円)	2017.6期 第1四半期 実績	2018.6期 第1四半期 実績	前年同期比		2018.6期 第1四半期 参考値※	前年同期比	
			増減	比率		増減	比率
受注高	35,915	26,713	△ 9,202	74.4%	-	-	-
売上高	12,282	14,168	1,886	115.4%	12,094	△188	98.5%
売上総利益	3,903	4,470	566	114.5%	3,897	△6	99.8%
営業利益	△ 1,663	△ 1,557	106	-	△ 2,130	△466	-
経常利益	△ 1,569	△ 1,189	380	-	△ 1,762	△192	-
親会社株主に 帰属する四半期純利益	△ 1,208	8	1,216	-	△ 564	643	-

- 受注高は、コンサルタント海外事業の大型案件受注を獲得した前年同期と比較し下回る。
- 売上高は、コンサルタント国内事業、コンサルタント海外事業が増収なるも、電力エンジニアリング事業が繰越案件の減少により減収。全体では売上計上基準の影響を除くと前年同期並み。
- 営業利益、経常利益とも増益なるも、売上計上基準の影響を除くと前年同期を下回る。
不動産売却益により四半期純利益は大幅増。

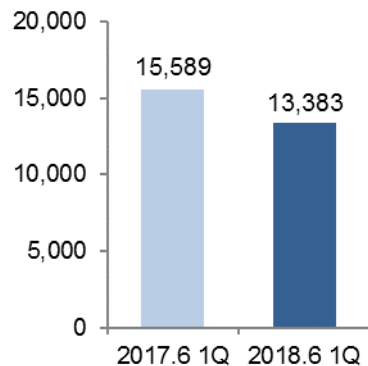
※2018年6月期より、売上計上基準を原則として完成基準から進行基準へ変更しております。それに伴い、2018年6月期第1四半期実績を、従来基準ベース(2017年6月期までの基準)で算出した参考値を記載しています。

セグメント別実績(受注高)

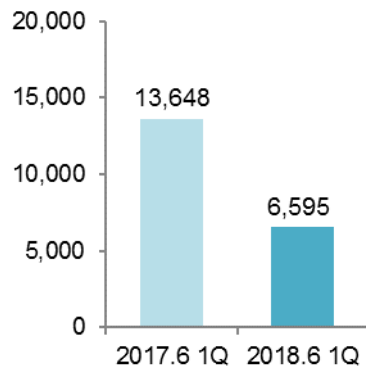
(単位:百万円)	2017.6期 第1四半期 実績	2018.6期 第1四半期 実績	前年同期比	
			増減	比率
受注高	35,915	26,713	△ 9,202	74.4%
コンサルタント国内	15,589	13,383	△ 2,205	85.9%
コンサルタント海外	13,648	6,595	△ 7,052	48.3%
電力エンジニアリング	3,866	4,069	202	105.2%
都市空間	2,806	2,660	△ 145	94.8%
その他	4	4	0	88.9%

※2018年6月期より、売上計上基準を原則として完成基準から進行基準へ変更しておりますが、受注高への影響はありません。

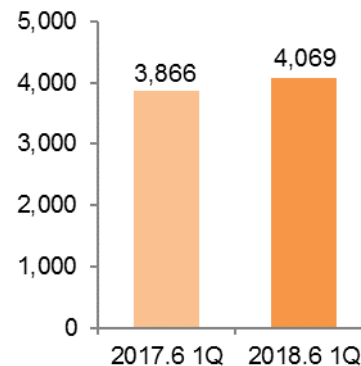
■コンサルタント国内



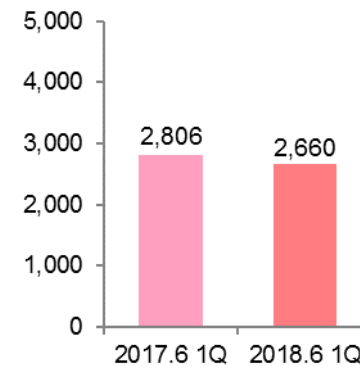
■コンサルタント海外



■電力エンジニアリング



■都市空間

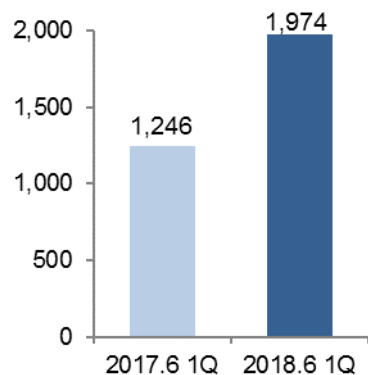


セグメント別実績(売上高)

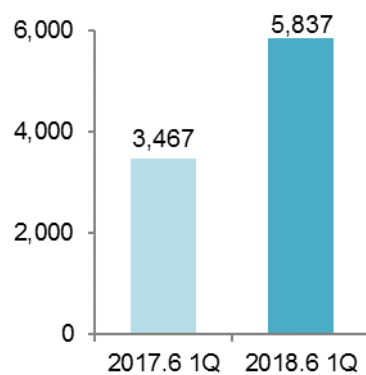
(単位:百万円)	2017.6期 第1四半期 実績	2018.6期 第1四半期 実績	前年同期比		2018.6期 第1四半期 参考値※	前年同期比	
			増減	比率		増減	比率
売上高	12,282	14,168	1,886	115.4%	12,094	△188	98.5%
コンサルタント国内	1,246	1,974	728	158.4%	1,566	319	125.7%
コンサルタント海外	3,467	5,837	2,370	168.3%	4,286	818	123.6%
電力エンジニアリング	4,134	3,103	△ 1,031	75.1%	3,013	△1,121	72.9%
都市空間	3,260	3,104	△ 156	95.2%	3,104	△156	95.2%
不動産賃貸	116	113	△ 3	96.7%	113	△3	96.7%
その他	55	35	△ 20	63.5%	11	△44	20.1%

※2018年6月期より、売上計上基準を原則として完成基準から進行基準へ変更しております。それに伴い、2018年6月期第1四半期実績を、従来基準ベース(2017年6月期までの基準)で算出した参考値を記載しています。

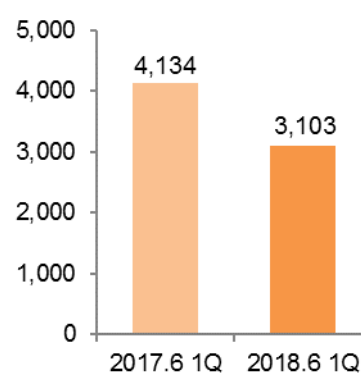
■コンサルタント国内



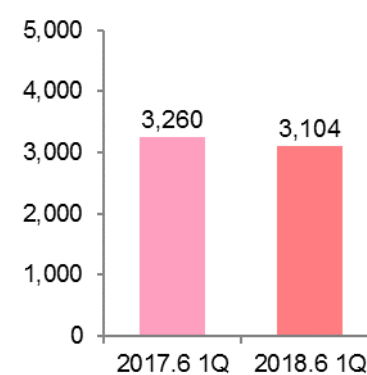
■コンサルタント海外



■電力エンジニアリング



■都市空間

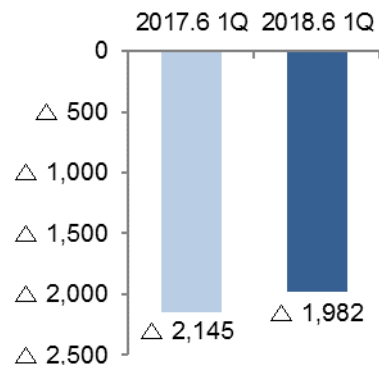


セグメント別実績(営業利益)

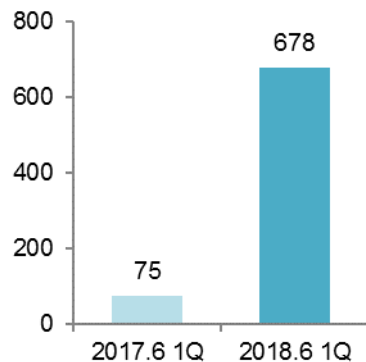
(単位:百万円)	2017.6期 第1四半期 実績	2018.6期 第1四半期 実績	前年同期比		2018.6期 第1四半期 参考値※	前年同期比	
			増減	比率		増減	比率
営業利益	△ 1,663	△ 1,557	106	-	△2,130	△466	-
コンサルタント国内	△ 2,145	△ 1,982	163	-	△2,057	87	-
コンサルタント海外	75	678	603	902.4%	202	127	269.9%
電力エンジニアリング	806	240	△ 565	29.8%	220	△585	27.4%
都市空間	76	41	△ 35	54.0%	41	△35	54.0%
不動産賃貸	91	105	13	114.5%	105	13	114.5%
その他・全社費用	△ 568	△ 641	△ 72	-	△642	△74	-

※2018年6月期より、売上計上基準を原則として完成基準から進行基準へ変更しております。それに伴い、2018年6月期第1四半期実績を、従来基準ベース(2017年6月期までの基準)で算出した参考値を記載しています。

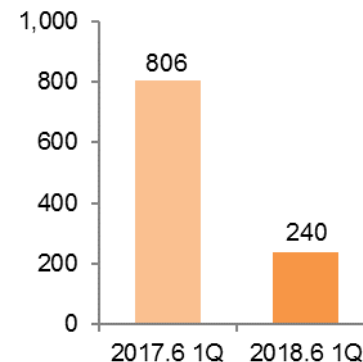
■コンサルタント国内



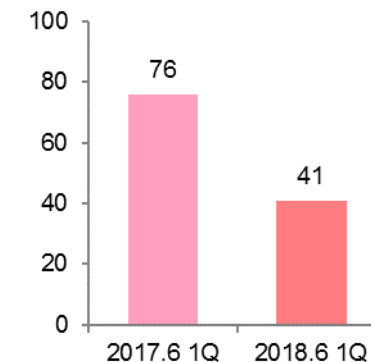
■コンサルタント海外



■電力エンジニアリング



■都市空間



セグメント別概況

コンサルタント国内

- 受注高は、グループ会社の大型案件受注が寄与した前年同期と比較し下回る。
- 売上高は、前期からの繰越業務の増加により増収。
- 営業利益は、増収および経費抑制等により、売上計上基準変更の影響を除くと前年同期並み。

コンサルタント海外

- 受注高は、大型案件受注を獲得した前年同期と比較し下回るも、受注環境は引き続き良好。
- 売上高は、豊富な手持ち受注残と、グループ会社の事業が順調に進捗し増収。
- 営業利益は、プロジェクトのリスク管理など利益体質強化の取組みが奏功し、利益率が改善。

電力エンジニアリング

- 受注高は、小水力関係の受注増加、前期末からずれ込んだ案件を受注し前年同期を上回る。
- 売上高は、前々期からの繰越案件が多かった前年同期と比較し、減収。
- 営業利益は、減収に加え、新事業部設立や要員の増強を行い、減益。

都市空間

- 受注高、売上高は、為替レートの影響を除くと前年同期並み。
- 営業利益は、販管費増により減益。

※ 2018年6月期第1四半期実績レート 1㊦=146.26円（2018年6月期計画レート1㊦=139.56円）

※ 都市空間事業の2018年6月期償却費は約10億円（のれん：約4億円、その他無形固定資産：約5億円）です。

※ 都市空間事業の2017年6月期第1四半期実績は、2016年4～6月のBDP社業績を連結しています。

※ BDP社は従前より進行基準を適用しているため、都市空間事業は売上計上基準変更による影響はありません。

2018年6月期 見通し

2018年6月期の通期見通しに変更なし。

(単位:百万円)	2018.6期 計画	2017.6期 業績	前期比		2018.6期 参考値 ※
			増減	比率	
受注高	103,000	117,442	△14,442	87.7%	103,000
売上高	114,000	101,338	12,662	112.4%	104,000
- コンサルタント国内	47,200	43,516	3,684	108.4%	43,000
- コンサルタント海外	31,800	24,491	7,309	129.8%	28,200
- 電力エンジニアリング	21,200	17,577	3,623	120.6%	19,100
- 都市空間	12,000	14,347	△2,347	83.6%	12,000
- エネルギー・不動産他	1,800	1,405	395	128.1%	1,700
営業利益	7,700	5,464	2,236	140.9%	5,800
- コンサルタント国内	3,500	3,298	202	106.1%	2,700
- コンサルタント海外	2,400	1,887	513	127.1%	2,000
- 電力エンジニアリング	3,500	2,683	817	130.4%	2,800
- 都市空間	50	81	△31	61.7%	50
- エネルギー・不動産・本社	△1,750	△2,485	735	-	△1,750
経常利益	7,800	5,958	1,842	130.9%	6,000
親会社株主に帰属する当期純利益	4,900	3,288	1,612	149.0%	3,600
営業利益率(%)	6.8	5.4			
ROE(%)	8.7	6.2			

※ 2018年6月期計画を
従来基準で算出した参考値

※2018年6月期より売上計上基準を変更しています。詳細は当資料10ページをご確認ください。

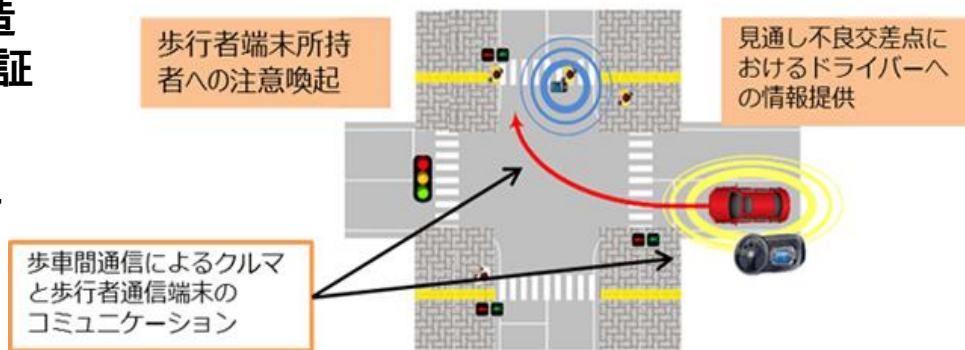
事業トピックス

コンサルタント国内事業： 自動走行システムに係る実証実験に参加

日本政府が推進する「戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)自動走行システム／大規模実証実験」に参加。

日本工営は、「歩行者事故低減」と「社会受容性醸成」をテーマとした実証実験を受託。

2018年より、公道において技術検証を実施。



コンサルタント海外事業： バングラデシュ国ダッカの国際空港拡張

バングラデシュのハズラット・シャージャラル国際空港拡張事業に係る設計・施工監理業務を、日本工営をはじめとする4社のJVで受注。

旅客ターミナルや貨物ターミナルを新設し、2022年の供用開始を予定。空港の旅客処理能力を現在の50%増の年1,200万人まで増やすことを目指す。



事業トピックス

コンサルタント海外事業：イラク国 ハルサ火力発電所改修計画 フェーズⅡ

イラク国バスラ県に位置するハルサ火力発電所内の第1号機の改修事業を受注。

イラク国電力省を技術面、プロジェクトマネジメントの面からサポートし、EPCコントラクターの施工監理、環境社会配慮の実施のモニタリング等なども行う。

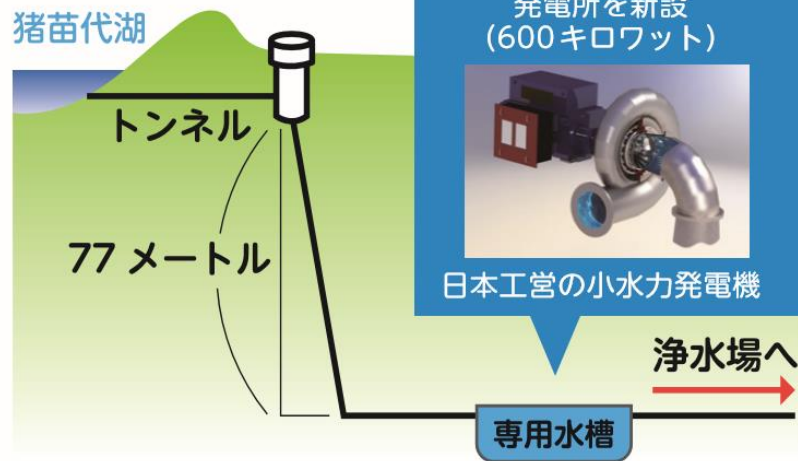
現在実施中の同プロジェクト4号機改修事業に続いての受注。



電力エンジニアリング事業：水道山水力発電所建設工事

福島県郡山市上下水道局の堀口浄水場上流にある減勢槽に小水力発電所を建設。

取水する猪苗代湖と減勢槽との高低差の未利用エネルギーを活用し、FIT を利用した売電事業を運営する。その売電収入の一部を上水道施設の利用料として郡山市上下水道局に還元する、郡山市で官民連携による初の事業。



事業トピックス

都市空間事業： グレート・オーモンド・ストリート病院(GOSH)

英国の小児病院再開発事業をBDP社が受注。

施設の全面改築および、診察室と病室を中心とした臨床スペース、医師研修用教室、学校、ティーンエイジの患者向けエリアと屋上庭園の新築整備を行う。



都市空間事業： ウェストminster宮殿 大改修関連事業

ウェストminster宮殿の大改修事業に係る建築設計業務を2017年7月に受託。

BDP社の保有する業務実績、および欧州でもトップレベルにある同社のBIM技術による生産性向上が高く評価され、世界の競合を制してBDP社が最高評価を得た。



参考：売上計上基準の変更(2018年6月期より)

2018年6月期より開始する案件については、売上計上基準を原則として「完成基準」から「進行基準」に変更しました。業務の進捗に応じて、売上と売上原価を計上します。

進行基準の計算方法

$$\text{売上高} = \text{見積収益総額} \times \text{進捗率} - \text{前期までの累計売上高}$$

$$\text{進捗率} = \frac{\text{発生費用(労務費・外注費・経費)累計}}{\text{見積費用総額}}$$

進行基準による売上計上のイメージ

例：契約期間3年、契約金額3,000万円のプロジェクトの場合

旧 前期からの繰越案件
全ての業務が完了した時に
売上の全額を計上

新

当期開始案件
業務途中でも進捗率に
応じて売上を計上

	1年目 (25%進捗)	2年目 (70%進捗)	3年目 (完成)	合計
完成基準	0	0	3,000	3,000
進行基準	750	1,350	900	3,000

$$3,000 \times 25\%$$

$$3,000 \times 70\% - 750$$

$$3,000 \times 100\% - 750 - 1,350$$

※2017年6月期までに受注・開始した案件については、完成基準を適用して計上します。

※影響額については、決算短信9ページ「会計方針の変更」をご参照ください。